

落語の言語学

nomura masaaki

野村雅昭





講談社学術文庫

野村雅昭（のむら まさあき）

1939年東京生まれ。東京教育大学文学部卒業。都立高校教諭、国立国語研究所員、早稲田大学教授を経て、現在、国立国語研究所名誉所員・早稲田大学名誉教授。専攻は日本語学。主な著書に『漢字の未来』『日本語の風』『落語のレトリック』『落語の話術』など、編書に『日本語事典』『新選国語辞典』『朝倉漢字講座』『現代日本漢語の探究』などがある。



定価はカバーに表示してあります。

らくご げんごがく
落語の言語学

のむらまさあき
野村雅昭

2013年10月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 株式会社廣済堂

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Masaaki Nomura 2013 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えます。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[R]（日本複製権センター委託出版物）

ISBN978-4-06-292198-5

目次

落語の言語学

第一章 落語の言語空間 …………… 11

話芸としての落語 11

落語のことば・落語家のことば 20

談話としての落語 39

落語の構造 52

第二章 マエオキはなぜあるのか …………… 62

マエオキについてのまえおき 62

桂文楽のマエオキ 63

一九六〇年ごろの落語家たち——その一 74

一九六〇年ごろの落語家たち——その二 82

大正うまれの落語家たち 92

昭和うまれの落語家たち 96

落語速記以前の状況 104

近代落語の成立とマエオキ 108

第三章

オチの構造

.....

三遊亭円朝のマエオキ 116

人情噺のマエオキの系譜 123

マエオキの構造 127

オチとはなにか 132

オチの成立 135

オチのいろいろ 141

これまでのオチの分類 144

オチの分布 153

ワライにおける緊張と緩和 158

落語とクライマックス 160

オチからみた噺の構成 165

枝雀の四分類 170

枝雀の分類と従来の分類の比較 175

談話行動としてのオチ	190
非言語行動によるオチの位置	197
独話によるオチ	201
対話によるオチ	206
質問表現に対するオチ	208
説明要求表現に対するオチ	215
命令表現と行動	223
命令表現に対する拒否表現	227
判叙表現に対するオチ	234
要求表現をとまなう判叙表現	240
判叙表現に対する否定表現	246
ジグチの構造	253
ジグチオチの位置	256
落語にはなぜオチがあるのか	264
談話行動からみたオチの類型	267
発話行動によるオチの分類	274

第四章 演題の成立……………280

落語の演題の特徴……………280

東京落語の演題……………285

演題の構成……………287

命名の視点……………291

演題における造語・命名の特徴……………296

上方落語の演題との比較……………299

演題の意味するもの……………302

文献……………304

あとがき……………311

わが青春の全落連と早稲田大学……………314

学術文庫版あとがき……………321

索引……………331

落語の言語学

野村雅昭

講談社学術文庫

目次

落語の言語学

第一章 落語の言語空間 …………… 11

話芸としての落語 11

落語のことば・落語家のことば 20

談話としての落語 39

落語の構造 52

第二章 マエオキはなぜあるのか …………… 62

マエオキについてのまえおき 62

桂文楽のマエオキ 63

一九六〇年ごろの落語家たち——その一 74

一九六〇年ごろの落語家たち——その二 82

大正うまれの落語家たち 92

昭和うまれの落語家たち 96

落語速記以前の状況 104

近代落語の成立とマエオキ 108

第三章

オチの構造

.....

三遊亭円朝のマエオキ 116

人情噺のマエオキの系譜 123

マエオキの構造 127

オチとはなにか 132

オチの成立 135

オチのいろいろ 141

これまでのオチの分類 144

オチの分布 153

ワライにおける緊張と緩和 158

落語とクライマックス 160

オチからみた噺の構成 165

枝雀の四分類 170

枝雀の分類と従来の分類の比較 175

談話行動としてのオチ	190
非言語行動によるオチの位置	197
独話によるオチ	201
対話によるオチ	206
質問表現に対するオチ	208
説明要求表現に対するオチ	215
命令表現と行動	223
命令表現に対する拒否表現	227
判叙表現に対するオチ	234
要求表現をとまなう判叙表現	240
判叙表現に対する否定表現	246
ジグチの構造	253
ジグチオチの位置	256
落語にはなぜオチがあるのか	264
談話行動からみたオチの類型	267
発話行動によるオチの分類	274

第四章 演題の成立 280

落語の演題の特徴 280

東京落語の演題 285

演題の構成 287

命名の視点 291

演題における造語・命名の特徴 296

上方落語の演題との比較 299

演題の意味するもの 302

文献 304

あとがき 311

わが青春の全落連と早稲田大学 314

学術文庫版あとがき 321

索引 331

落語の言語学